



「浦和のさかえに 歴史をほこる」開校152年目の挑戦

大いちょう

令和 5年 2月 1日
さいたま市立高砂小学校

高砂小学校だより 令和4年度 No. 10 048 (829) 2737

学びをいかす子どもの育成のために

校長 永山 誉

2月4日は二十四節気の立春。暦の上では春ですが、まだまだ寒い日が続きます。気象学上では、12月～2月の3か月が冬にあたり、1年の内でも1月下旬から2月上旬が最も寒い時期ともいわれています。この時期は、特に乾燥していることから、新型コロナウイルス感染症だけでなく、インフルエンザの流行も心配されます。まだまだ乾燥した日々が続きます。引き続き、手洗い・うがい・部屋の換気等の励行をよろしく願いいたします。

さて、1月27日には、3年ぶりの参集型での実施（昨年度はオンラインにて実施）となる、第50回高砂小学校公開研究協議会が開催されました。当日は、県内各地から150名以上のお客様をお迎えし、日頃の教育実践の成果を発表することができました。公開授業クラスの保護者の皆様にはお弁当の準備を、またPTA本部の方を中心に運営のお手伝いをいただきましたことに深く感謝申し上げます。

ところで、この公開研究協議会は、本校の特色ある教育活動の一つです。今年度から4年間の第15次研究をスタートさせ、研究主題を「学びをいかす子どもをはぐくむ教育課程の工夫改善」とし、「みんなが取り組み、進んでいかす学びの創造」を副題として、特に「いかす」に焦点を当てて日々の授業実践を行っています。また、この研究では、主体的・協働的・自覚的に生き、進んで学びをいかす子どもは、「自他の幸せの実現のために、生涯にわたって質の高い学びを重ねていける人」となることを期待しています。今の学びが、将来にわたって日常生活や地域・社会でいかせるような力を育てていきたいと考えていますが、そのような力を育てるためには、一人一人が自らを問いながら、深く考える力を養っていくことが大切であると考えています。パナソニック（旧松下電器産業）グループの創業者であり、PHP研究所創設者の松下幸之助氏（1894～1989）は、その研究所の機関誌の中で次のように言っています。

自問自答

自分のしたことを、他の人びとが評価する。ほめられる場合もあろうし、けなされる場合もある。冷やかに無視されることもあろうし、過分の評価にびっくりすることもある。さまざまの見方がある。さまざまの評価である。

だから、うれしくなって心おどる時があれば、理解の乏しさに心を暗くする時もある。一喜一憂は人の世の習い。賛否いずれも、ありがたいわが身の戒めと受け取りたい。

だがしかし、やっぱり大事なことは、他人の評価もさることながら、まず自分で自分を評価するということである。自分のしたことが、本当に正しかったかどうか、その考え、そのふるまいにほんとうに誤りがなかったかどうか、素直に正しく自己評価するということである。

そのためには、素直な自問自答を、くりかえし行わねばならない。みずからに問いつつ、みずから答える。これは決して容易ではない。容易な心がまえで、できることではないのである。しかし、そこから真の勇気がわく。真の知恵もわいてくる。

もう一度、自問自答してみたい。もう一度、みずからに問い、みずからに答えたい。

※PHP研究所の機関誌の裏表紙に連載した短文の中から121篇をまとめた「道をひらく」(PHP研究所)より(原文通り)

学びをいかすには、これまでの学びを振り返り、自問自答しながら、よい問いを重ねていくことで、新たな学びを拓いていくことが大切になります。私たちの研究が、子どもたちの将来にわたって働く力となるよう、これからも努めてまいります。引き続き、本校教育への御理解と御協力のほどお願い申し上げます。